

第22回つやまロボットコンテスト ルールブック

決めろシュート!!

アイスホッケーロボコン

小中学生の部

■競技概要■

第22回の競技は、アイスホッケーをテーマにしたロボコンです。
各チームは1台のロボットを製作し、アイスホッケーを模した競技
ルールで対戦を行い、時間内での得点を競います。



【目次】

<u>1. 大会形式</u> 3	<u>4. 競技の内容</u> 4
1-1 競技方式	4-1 競技時間
1-2 審判	4-2 ロボットの配置
1-3 表彰	4-3 競技開始（フェイスオフ）
<u>2. 競技環境</u> 3	4-4 チームメンバー
2-1 競技フィールド	4-5 競技の進行
2-2 競技エリア	4-6 ロボットの転倒・故障・修理
2-3 パック	4-7 競技の中断と再開
<u>3. ロボット</u> 3	4-8 反則行為
3-1 ロボットの条件	4-9 失格
3-2 ロボットのデザイン	<u>5. 安全対策など</u> 6
3-3 計量計測	5-1 大会を安全に行うために
	5-2 災害時の避難
	5-3 その他
	5-4 情報の共有

改定履歴

日付	版	改定内容
平成29年 6月 1日	初版	
平成29年 6月23日	2版	4-1-4 遅刻時の配点を「5点」から「3点」に変更
平成29年 9月12日	3版	4-5-1 相手フィールドへの進入禁止を追記

1. 大会形式

1-1 競技方式

- 1-1-1 競技は、予選リーグ及び決勝トーナメントで構成し、1競技フィールドあたり1回の競技で2チームが対戦を行う。予選リーグでのチーム構成及び競技順は、主催者が所属（小学校・中学校）を考慮して決定する。
- 1-1-2 競技は、2チームが競技開始から終了までの得点を競う。より多くの得点を得たチームが勝者となる。
- 1-1-3 予選リーグは、各組内での勝ち点数によりチームの順位を決定する。勝ち点数により順位が決しない場合は、得失点差により順位を決定する。得失点差によっても順位が決しない場合は、総得点数により順位を決定する。それでもなお順位が決しない場合は各チーム代表1名によるじゃんけんによって決定する。
- 1-1-4 勝ち点は次のとおりとする。
 - (1) 勝ち 3点
 - (2) 引き分け 1点
 - (3) 負け 0点
- 1-1-5 決勝トーナメントは、予選リーグ各組1位が進出する。
- 1-1-6 決勝トーナメントにおいて、競技時間内に勝敗が決しない場合は、先に得点を得たチームが勝者となるサドンデス方式の競技により勝敗を決する。

1-2 審判

審判は、1競技フィールドに対して2名で構成する審判団が行う。

1-3 表彰

- 1-3-1 表彰は、優勝、準優勝、第3位、特別賞とする。
- 1-3-2 受賞者には、表彰状と副賞を授与する。

2. 競技環境

2-1 競技フィールド（競技フィールド図参照）

- 2-1-1 競技フィールドは、片面縦850mm横1200mmの平面を2つ合わせた形とし、その間に仕切り板として床面から50mmの高さにアクリル板を設置する。フィールド平面の高さは床面から約300mmとし、フィールド平面の周囲を高さ約30～50mmの壁で囲む。フィールド平面の材質はアルミ樹脂複合版（ソレイタFSV-321S）とし、その表面を塩化ビニールシートで覆う。
- 2-1-2 競技フィールドは、会場の床面の形状などにより、必ずしも平らにならないので注意すること。
- 2-1-3 ゴールネットの開口部は、幅700mmとする。

2-2 競技エリア（競技エリア図参照）

競技フィールド外周部に競技エリアを設定する。

2-3 パック

- 2-3-1 パックはエアホッケー（直径約90mm高さ約40mm、ザ・チャレンジ実行委員会が配布する物を参照）を使用する。
- 2-3-2 競技開始前及び競技中のパックやパックの電池等の交換は主審の判断により行う。

3. ロボット

3-1 ロボットの条件

3-1-1 競技に参加できるロボット

競技に参加できるロボットは各チーム1台とする。ロボットは、ザ・チャレンジ実行委員会が支給

するキット（優良教材㈱ #501-02 ツーモーター駆動ベース、#503-041 ロボットコントローラ、#1374 パワーアームロボⅡ、配線 2m）を使用すること。駆動モーター、駆動ギア、コントロールボックスは変更してはいけないが、これら以外のホイールベース、タイヤ、ケーブル、モーターなどは追加してもよい。

3-1-2 ロボットの制御

ロボットは、有線によるリモートコントロールとする。

3-1-3 ロボットの大きさ

ロボットの大きさはスタート時の状態で測定する。出場するロボットは、スティックを所持した状態で、操縦用コントローラ及び接続ケーブルを除き全長 300 mm以内とする。

3-1-4 ロボットの構造

ロボットの構造として、分離する構造は認めない。

3-1-5 ロボットの重量

総重量は制限しないが、各チームで持ち運びできるものとする。

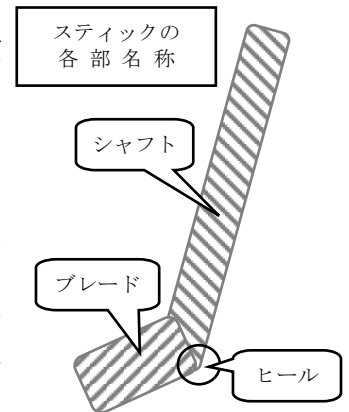
3-1-6 危険な材料・仕組みの禁止

ロボットの仕組みや材料に、爆発物などの危険なものは使用してはいけない。

3-1-7 スティックの所持

ロボットは、競技中、常にスティックを 1 本のみ所持していなければならない。所持するスティックは次のとおりとする。

- (1) スティックは、木やプラスチック等を材料に用い、アイスホッケーのスティックを模した形状のものとする。
- (2) スティックは、パックをコントロールする際の衝撃等で容易に破損しない強度を有していなければならない。
- (3) スティックのどの部分にも、着色を施すことができる。ただし、金属及び粘着性のある成分を含む塗料並びに表面に粘着性のある粘着テープ等は使用できない。
- (4) ロボットは所持したスティックを動かすことができるが、ロボットとスティックとを合わせた全長は常に 300 mm以内でなければならない。



3-2 ロボットのデザイン

3-2-1 ロボットは、他者の著作権を侵害するものであってはならない。

3-3 計量計測

大会に出場する全てのロボット及びスティック（予備のスティックも含む）は、計量計測を受けなくてはならない。計量計測を受けていないロボットは、大会に出場できず、軽量計測を受けていないスティックは大会で使用してはならない。

なお、計量計測後は、競技が終了するまでロボットを会場外に持ち出してはならない。

4. 競技の内容

4-1 競技時間

4-1-1 競技時間は 3 分間とする。

4-1-2 競技は、競技フィールドに設置された時計に合わせて進行される。

4-1-3 競技は、審判による開始の合図から終了の合図までの得点を記録する。

4-1-4 チームが競技開始時刻に遅刻した場合は、そのロボットの記録は得点無しとし、相手チームに 3 得点を与える。

4-1-5 競技が中断した場合、原則として時計を止め、競技が再開した際に止めていた時計を動かす。

4-2 ロボットの配置

- 4-2-1 各チームの操縦者のじゃんけんにより、パックの優先権か競技フィールドの自ゴールの位置を決定する。
- 4-2-2 ロボットは自ゴール側の競技フィールド内にチームメンバーが配置する。なお、配置時にはロボットの調整は一切行ってはならない。
- 4-3 競技開始（フェイスオフ）
 - 4-3-1 審判による開始の合図で、競技を開始する。
 - 4-3-2 審判は開始時にパックの優先権を持つチームのフェイスオフ・スポットにパックを置く。
- 4-4 チームメンバー
 - 4-4-1 原則としてチームメンバーが直接ロボットを触って動かすことは認められない。
 - 4-4-2 審判の指示があった場合に限り、チームメンバーはロボットを触って動かすことができる。
 - 4-4-3 チームメンバーは、審判の指示に従ってロボットの配置、撤去、置き直しをする。
 - 4-4-4 操縦者、有線の補助者以外のチームメンバーは、審判が特に指示しない限り、競技中は競技エリアから出ていること。
 - 4-4-5 操縦者、有線の補助者は、競技中に競技エリアから出て操縦等を行ってはならない。
 - 4-4-6 ロボットの操縦者及び有線の補助者は、各チームそれぞれ1名とし競技途中では交替しないこと。
- 4-5 競技の進行
 - 4-5-1 ロボットの動き

競技開始後、ロボットはスティックでパックをコントロールし、ゴールを目指す。なお、ロボット及びスティックは仕切り板を越えて相手フィールドに進入してはならない。
 - 4-5-2 パックのコントロール

パックのコントロールとは、ロボットがスティックによってパックを制御している状態をいう。ただし、故意にスティック以外でパックをコントロールしてはならない。また、故意にパックの側面部分以外に接触し、パックをコントロールしてはならない。
 - 4-5-3 ゴール

パックが完全にゴールネットに入り、審判が何ら違反をしていないとみなした時には、ゴールは認められる。ゴールが認められた場合、パックが入ったゴールネットの相手チームに1点を加算し、パックが入ったゴールネットのチームにパックの優先権が与えられる。
 - 4-5-4 ゴール後の競技再開

ゴールが認められた場合、競技の再開（フェイスオフ）は4-3 競技開始に準じて行う。この場合、有線の補助者がパックを自ゴール側のフェイスオフ・スポットに配置し、競技は中断せず、時計は止めない。
- 4-6 ロボットの転倒・故障・修理
 - 4-6-1 ロボットの転倒等

ロボットが転倒等により自力で起き上がれない場合、競技が中断している時に審判の指示によりチームメンバーが競技フィールドに入ってロボットを起こすことができる。
 - 4-6-2 ロボットの故障・修理、スティックの破損等

各ロボットは、1競技につき1分間のタイムアウトを1回取ることができる。この場合、操縦者が審判へ申告を行い、審判が競技を中断した後、申告のあったチームメンバーがロボットを競技フィールド外に搬出する。その際、修理やスティックの交換等を行うことができる。競技フィールド外に搬出したロボットを競技フィールド内に戻す時は、その旨を審判に申告し、審判の指示に従わなければならない。タイムアウト後の競技再開時のロボット及びパックの位置は、タイムアウト前のそれぞれの位置を基に審判が指示する。
- 4-7 競技の中断と再開
 - 4-7-1 ゴールが認められなかった場合及び違反があった場合等

ゴールが認められなかった場合及び違反があった場合は、審判の笛により競技を中断する。パックは、違反をしたロボットの相手ロボットに与えられ、審判の笛により競技を再開する。

4-7-2 競技の進行に支障がある場合等

審判は、競技の進行に支障がある場合、または安全上の問題がある場合等は、笛を吹いて競技を中断することができる。この場合、ロボットはただちに停止し、審判の指示に従う。また審判は、競技の再開を行うことができる。

4-7-3 その他の場合

審判により競技が中断した場合、審判はそれぞれに指示をし、競技を再開することができる。

4-8 反則行為

4-8-1 以下の行為を反則行為とする。

- (1) 故意に接続ケーブルでパックをコントロールしようとする行為
- (2) 故意にロボットがスティックを所持しなくなる行為
- (3) 故意に競技の進行を遅らせる行為
- (4) 故意に競技フィールドまたはパックを汚染または破損させる行為

4-8-2 反則行為が行われた場合、審判の指示により競技を中断し、ペナルティとして反則を行ったチームの相手チームに1点とパックの優先権が与えられる。

4-8-3 反則により競技が中断した場合の競技の再開（フェイスオフ）は4-3 競技開始に準じて行う。

4-9 失格

4-9-1 以下の行為を失格行為とする。

- (1) 故意に他チームのロボットを破壊する行為
- (2) 故意に競技フィールドを破壊する行為
- (3) 審判の注意や指示を無視する行為
- (4) 故意に他チームの操作を妨害する行為
- (5) 予選において全ての競技に遅刻した場合

4-9-2 失格行為を行ったチームは失格とし、競技に参加しなかったものとみなす。

4-9-3 失格の判断は審判が行う。また競技前や競技終了後に、審判団が協議のうえ失格とする場合がある。

5. 安全対策など

■事故が起きてしまうと、大会を行うことができません。大会期間だけでなく準備、製作段階を通して、安全に十分留意してください。

5-1 大会を安全に行うために

5-1-1 ロボットの不具合や暴走等が起きた時は、速やかに審判に申告しロボットを停止させること。

5-1-2 制御できない飛行、及び風船などの制御できない浮遊物体を飛ばすことを禁止する。

5-1-3 競技の練習は十分な安全対策を行った上で行うこと。

5-1-4 アイデアマンシップにのっとり競技を行うこと。同一所属の類似ロボットでの参加はご遠慮ください。

5-2 災害時の避難

大会中、災害等が発生した場合、主催者は競技の中止を決定し、参加者は主催者の指示に従い速やかに避難すること。

5-3 その他

安全を確保するため、また競技の円滑な進行を行うためなどの理由で、競技課題・規定は変更されることがある。

5-4 情報の共有

当大会では競技に関連して開発された技術やカリキュラムについての情報を競技終了後、他の参加者と共有することが共通の理解となっている。